

4つの市民団体の共同声明

住民投票を終えて

「ほぼ全額税金で、北本のみ負担も多く、地権者や桶川市との協議も不十分な新駅計画」に対して、北本市民は「否」の判断をした。もとより、私たち市民の会は、今回の住民投票を、「駅が必要か、必要でないか」の「推進派」「反対派」とか、「まちを二分する」といった争いをしてきたわけではないことを、改めて申し上げる。

賛成が過半数を超えれば、事後の住民負担が限りなく増加し、医療・福祉・教育など、さまざまな分野に支障をきたすことが予想され、反対が上回れば、これまで30年以上にわたって新駅を待ち望んできた市民に、失望を与えることになる。しかし私たちは、駅の建設そのものに異を唱えているわけではなく、「資金の大半を北本市だけの税金投入で建設する」ことに対して「否」としているのである。市長の方から「新駅計画の賛否についての住民投票」という形で住民に投げかけられた以上は、その結果を出さなければならないため、苦渋の判断をしたものである。

求めている新駅は請願駅であることから、将来に向けてまったく門戸が閉ざされたわけではなく、条件を整えばいつでも請願できる性質のものである。本来、駅の建設は、受益者となる北本市民と桶川市民がともに手をたずさえ、予定地となる地権者の了解を取り付け、関係者が等しく応分の負担と利益の享受を納得したうえで推進すべきものであると考える。

また、庁舎建設基金が手元にある今だから、これを流用しようという乱暴な考えは、市民として到底受け入れられない。あわせて、1千数百万円以上の税金を使い、バラ色の計画のみを市民に説明してきた市長には、深く反省することを要求する。

住民意思としての結果が出された以上、そのことを重視し、以後にしこりを残すようなことがあってはならない。今後は、よりよい北本市を後世に残すため、北本市民が一丸となって、まちづくりを推進していくことを期待する。新駅建設問題は、市長に一任する現在の議会にも問題があると考えている。今後は、住民投票の結果を真摯に受け止め、税金の使い方に対する市民の意向をしっかり確認してもらいたい。新駅を待ち望んでいる市民のためにも、全市的な合意形成が図れるよう、議会の総力を挙げて取り組むことを期待する。

平成25年12月15日

新駅の住民投票に行こう市民の会
税金負担による新駅に反対する市民の会
北本のまちづくりを考える市民の会
新駅建設に反対する市北部地域の市民の会

みんな考えた

北本のまちづくり

◇住民投票の結果

賛成票	8,353票
反対票	26,804票
投票率	62.34%



「新駅建設の賛否を問う住民投票」という、いきなり投げられたこのやり方に、戸惑いを感じながらも、賛成なのか反対なのかを考える中で、

「北本のまちづくりをどうするか」ということを、一人一人が考える機会となりました。新駅建設については、上記のような投票結果になりましたが、「じゃあ、この後どうするの?」ということ、みんな考えなければなりません。私たち「市民の会」

は、さっそくバス問題に取り組んでいきたいと考えています。



◇引き続き、住民自身が考えるまちづくりを

住民投票をきっかけに、考え始めた「まちづくり」の課題について、これからも引き続き考えていきましょう。限られた財政のなかで、何にお金を使うべきかを、みんなで話し合っ決めていきましょう。「住民自治」の力を、もっともっ強めていましょう。



北本のまちづくりを考える市民の会

～人にやさしいまちづくりと～ 第2号

代表 杉田仙太郎

TEL 591-1467

市民の願いを、まちづくりの基本に

◇人口減少、高齢化が進む



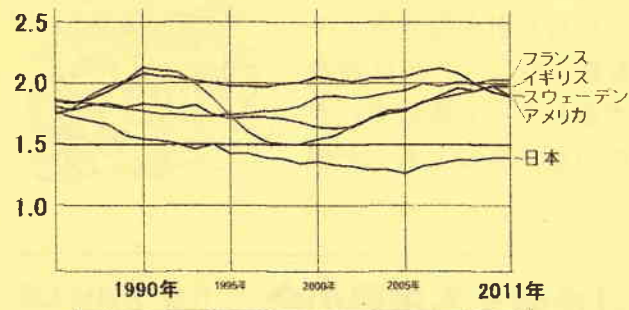
今、日本は、歴史上はじめて人口減少時代を迎えています。北本市も2005年から人口が減り始め、空き家の数も年々増加しています。税収が減る一方で、医療や介護の支出は増えていきます。これまでの都市計画は、人口増加を前提に立てられてきました。これを根本から見直す必要があります。

◇子育て環境の充実、公共の責任



若い人が結婚をし、子供を産み育てる、その環境は今、劣悪です。就職難、低賃金、過酷な労働条件など、国政レベルでの改善を求めつつ、自治体にできる子育て支援の施策を高めていくことが必要です。ヨーロッパで定着している「子育ては社会が責任を持つ」という考えを、

日本でも広めていきたいものです。



出生率(2011年)
 フランス 2.03
 イギリス 1.98
 スウェーデン 1.90
 アメリカ 1.89
 日本 1.39
 ドイツ 1.36
 ※出生率2.08が、人口維持ライン

◇公共交通は、まちづくりの土台

「バス路線を充実して欲しい」というのが多くの北本市民の願いです。毎日の通勤の足、高齢者の病院や公共施設への移動や買い物など、快適で安心して暮らせる町づくりを、市民目線で行なっていきましょう。道路が拡幅され、歩道が広くなりつつある中仙道を、自転車やウォーキングなどで、楽しく移動できる街並みにしていきましょう。

